

## 2009年度（平成21年度）第1回福山市入札監視委員会会議概要

### 1 会議名

2009年度（平成21年度）第1回福山市入札監視委員会

### 2 開催日時・場所

2009年（平成21年）5月28日（木）午後3時～午後4時30分  
福山市役所本庁舎3階 小会議室

### 3 出席委員

中山委員，相原委員，三谷委員，西原委員，竹田委員

### 4 出席した職員

建設管理部長，土木部長，農林土木部長，建築部長，都市部長，水道局業務部長，水道局工務部長，建設政策課長，契約課長，技術検査課長，道路建設課長，幹線道路推進室長，沼隈建設産業課長，神辺建設産業課長，営繕課長，水道局経理課長

### 5 会議の概要

#### (1) 2008年度（平成20年度）の契約状況等について

契約課長から次のとおり説明を行った。

2008年度の福山市発注分の入札件数は1,025件で，その落札率は，79.36%，水道局発注分が171件で，85.30%であった。福山市発注分について，2008年度の落札率の状況を2004年度と比較すると，11.1ポイント，2005年度と比較すると，8.1ポイント，2006年度と比較すると，1.2ポイントそれぞれ低下しており，水道局発注分についても，概ね同様の状況である。2007年度と比較すると，福山市分が約5ポイント，水道局分が約3ポイントそれぞれ上昇している。この要因は，2008年度における入札・契約制度改正の中で，企業の健全経営に配慮する観点から，最低制限価格の見直しを行った結果であると考えている。

#### (2) 前回の委員会で要望又は指摘のあった事項について

契約課長から次のとおり説明を行った。

前回の委員会で，本市が契約締結拒否により指名除外措置した者について，本市が再公告をして契約した金額が，この業者の落札金額と比べ5%以内でなければ，本市が損失を被ったことになるのではないかとこの質問があったが，本市としては，落札者が契約を締結しない場合に被った損害を補填するものとして，契約金額の100分の5に相当する金額を入札違約金として徴収するとしているため，それで補填されたものと考えている。さらに，落札して契約しなかったことに対し，6ヶ月の指名除外措置を行っているため，業者にとっては厳しいものであると考えている。

(3) 抽出案件の選定理由について

中山委員から次のとおり説明を行った。

条件付一般競争入札から、応札が少なく、落札率が80%程度で高止まりしており、何か特別な事情があるのではないかとと思われるものを2件、応札が1社しかなく、落札率が95%程度と非常に高く、競争の原理が働いていないと思われるものを1件、65社が応札し、そのうち51社が最低制限価格未滿で失格となっており、小額の工事になぜこれほど応札が集中するのかとの思いから1件選定した。また、指名競争入札からは、落札率の特に高いものを1件選定した。

(4) 抽出案件の審議

- ア 消波護岸整備工事（阿伏兎港）
- イ 道路舗装工事（赤坂南地頭分1号線外1路線）
- ウ 元福山市松永勤労青少年ホーム体育館床改修他工事
- エ 道路改良工事（唐船浦友線・20-2）
- オ 道路改良工事（湯野28号線）

アからオについて、契約担当課長及び当該工事担当課長が、それぞれの工事について説明を行った。

(5) 入札及び契約手続の運用状況についての報告

指名除外措置運用状況について、契約課長から取りまとめて報告を行った。

(6) 次回委員会の開催日時について

8月上旬に開催することとし、日程については、後日事務局が調整する。

(7) 次回委員会で審議の対象とする工事の抽出方法について

次回の事案の抽出は、本年4月から6月分を対象として、相原委員が担当する。

6 発言の要旨

主な質疑応答は、次のとおりである。

抽出案件の審議

ア 消波護岸整備工事（阿伏兎港）について

Q1 工事額が大きい割に応札業者が11社と少なく、そのうち4社が辞退し、落札率も80%程度である。条件付一般競争入札全体の平均値は約75%前後であるが、他と比べ少し高い。何か特別なものがあるのか。

A1 この工事は、基礎捨石の上に潜水士が被覆石を並べ、その上にクレーン付台船で消波ブロックの設置を行うという特殊な工事のため、海上施工による海岸工事、港湾工事又は漁港工事の元請としての施工実績を求めた。

入札参加資格の設定にあたり、事前に施工実績を確認したところ、対象は11社であったが、結果的に予想より応募が少なく、各社の手持ち工事との関わり等があったので

はないか。また、落札率については、潜水士による水中作業を伴うという特殊な技術を要するものであり、施工者が限られたことによるものではないかと考えている。

イ 道路舗装工事（赤坂南地頭分1号線外1路線）について

Q2 同じ日に開札を行った工事のうち、予定価格が2番目に低い工事であるにも関わらず、65社が応札し、51社が最低制限価格未満で失格となっている。なぜ、この工事に応札が集中したのか知りたい。例えば、この工事が次々に延長されて、最初の区間を取っておけば、次は随意契約になる可能性があるということがあるのか。

A2 舗装工事の入札状況について、2007年度は、発注件数125件に対し、工事1件あたりの入札参加者数は約10社であったが、2008年度は、発注件数110件に対し、工事1件あたりの入札参加者数は約52社となり、前年度の約5倍と激増している。理由としては、2008年度から原則全ての入札を条件付一般競争入札としたため、入札参加を希望する者が市内全域から参加可能となったこと、また、舗装工事は比較的管理が容易で、短期間で完成できることなどが考えられる。

失格者が多いことについては、公共工事が少ない中で、市内全域からの応募が可能となったため、ますます受注競争が激しくなり、入札参加者の多くが最低制限価格付近での入札を行った結果と考えている。

この路線の未整備区間は、65m残っているが、当面工事実施の見込みはないため、追加で随意契約になることはない。

○ 落札率が下がれば良いというのではなく、地元企業の育成という観点から、あまりに低価格で推移するのはいかがなものかと考える。

Q3 今年度の最低制限価格はどのようになるのか。

A3 今年度においては、厳しい経済状況に対応し、企業の健全経営に配慮する観点から、最低制限価格の更なる見直しを行ったところであり、2008年度と比較し、数ポイント上昇すると予測している。

ウ 元福山市松永勤労青少年ホーム体育館床改修他工事について

Q4 同じ日に開札した案件は14件であるが、この工事のみが1社の応札で、落札率が非常に高い。他の物件は70数%の落札率であるのに、この工事のみ落札率が高い。今回の条件付一般競争入札にも1社ないし2社しか応札のない案件がいくつかあるが、ほとんどが高落札率である。競争の原理があまり働いていないように見受けられるがどうなのか。

A4 建築一式工事の入札参加資格を確認したところ、この工事に参加できるDランクの者は50社あり、数社の応札を予想していたが、結果的に1社しかなく、各社の手持ち工事等の関わりがあったのではないかと考えている。

条件付一般競争入札で、入札参加者が1社の場合は競争性が確保されるのかという点については、一般競争入札は広く公告して入札参加者を募集するものであるため、入札者は、他に入札者があることを予想し、これと競争する意思を持って入札に参加しており、競争性は確保されていると考えている。

Q5 入札参加者が1社というのは好ましくない。施工実績を求めるのはわかるが、それが

参入障壁になってはいけない。参加者を増やす工夫はないのか。

A 5 施工実績については、従来は過去10年以内の経験としていたものを年数の制限をなくしたり、民間工事でも施工実績と認めるなど緩和に努めている。

エ 道路改良工事（唐船浦友線・20-2）について

Q 6 同じ日に開札した案件は8件で、いずれも高額な工事である。この工事以外の案件は応札業者が30社以上あり、96社というものもあるのに、この工事は7社の応札であり、他の工事は落札率が70数%であるのに、この工事は落札率は82.7%である。また、他の工事は半数以上の失格を出しているのに、この工事は失格はない。その背景は何か。

A 6 施工場所が市内の鞆港から船で30分程度かかる離島であること、作業員及び工事材料等を船で運搬した上での作業が必要になることから、施工者が限られたことによるものではないかと考えている。

オ 道路改良工事（湯野28号線）について

Q 7 指名競争入札は、94%前後の落札率であれば、話し合いの疑いが非常に大きいと考えられる。指名競争入札はどの業者が応札するかが予測されるため、話し合いが行われやすい環境にあると思われるがどうか。

A 7 神辺町内で施工する工事の業者選定については、神辺町との合併に伴う特例措置によって、神辺町内に本店を有する者を指名することを原則としている。この工事についても、各社の手持ち工事及び技術者の状況を勘案し、その要件を満たす者を指名したが、この委員会でこれまで議論されてきたように、地域を限定しての指名業者の選定というところに課題があると考えている。

本年4月1日以降は特例措置もなくなるため、市全体の落札率と同様の状況になるものと考えている。